

オホーツク海中部海域の「海鳥生息調査」と「海上ウォッチング」

1 目的

オホーツク海中部海域（紋別沖）の海鳥の生息状況を季節ごとに把握する

説明 北海道のオホーツク海沿岸ではサハリン北東部の石油開発に伴う油流出事故の危険性が常にある。2006年2月に起きた知床半島の事件でも明らかだが、油流出事故が発生した場合に最初に被害を受けるのは海洋生態系の頂点に立つ海鳥である。しかし、現在日本においてオホーツク海（他の海域も）の海鳥の生息状況は明らかになっていないとは思えない。そのため万が一油流出事故が発生した場合、海鳥を保護（救護）するための初期体制を考えることが困難である。本調査によりオホーツク海の海鳥の生息状況を把握するための基礎データを集め、今後起こる可能性の高い油流出事故に対して、海鳥に関しての対策を事前に検討できるだけのデータを集める。また本調査の結果をふまえ、今後他海域の調査体制も確立して行ける方向性を考えたい。

紋別沖において、ガリンコ号を使っての海鳥ウォッチング（海獣類含む）を事業として、行うことや、環境教育の場として利用することが将来的に可能かどうかを調査する。また、その際のガイドや講師を養成するための事前準備をする。

説明 紋別沖には、ミズナギドリの大群やイルカの回遊がみられるといわれるが、実態は明らかになっていない。オホーツク海における夏季の観光船運航は知床半島にあるが、その他の海域でも海鳥等を見る機会が必要と思われる。さらにそれが観光事業として将来的に成り立つ可能性を探りたいと思う。
また、海上での海鳥ウォッチング（海獣類含む）を通じて地域の海洋自然環境の大切さを学ぶ機会になるように希望したい。

2 方法

紋別観光汽船の「ガリンコ号」を使い、紋別港から沖合い約15kmの間に出現する海鳥を目視し、カメラ及びビデオカメラ、ボイスレコーダー等により記録する。また位置情報をGPSにより記録する。

海鳥の洋上調査の方法はまだ確立されているとは思えないので、その標準となる調査方法も探る。

3 調査期日

望ましい調査期日は確実には分からないが、季節ごとに1度程度が季節変化を知る上で理想だと思われる。しかし船の料金など経費の問題、季節による波浪等を考え以下の運航日としたい。

2010/05/29 SAT

4 結果の報告

得られた記録は取りまとめて関係方面に提供するとともに、関係機関の求めに応じて行く。